
6年研究授業計画

東二番丁小学校 6学年担任 井上 竜一

1 研究教科 国語科

2 国語科で目指す児童像

課題に対する自分なりの考えを持ち、言語を使って理由や根拠を明確にして伝え合い、自らの考えや集団の考えを広げたり深めたりすることができる。

3 児童の実態

国語の学習には意欲的な児童が多く、音読や漢字練習などの家庭学習にもしっかりと取り組むことができる。4月の音読教材では、一人一人が感じたことや考えたことを反映させながら工夫して音読する姿が見られた。文章を読んで感じたことや考えたことをノートに記述することもできている。一方、自分の考えを整理し、発表することができる児童は一部に限られており、全体的に考えの発表、交流には消極的な児童が多い。そのため、個人の発表から全体の考えへと深めるような活動は難しい。考えたこと、感じたことを言葉で表現しようとする意欲を高め、友達との交流の中で自分の考えを広げたり、深めたりすることができるような指導を進めていく必要がある。

4 授業研究計画

- (1) 説明的な文章の読み取りを通して、要旨を捉えたり事実と感想、意見などの関係を押さえたりしながら自分の考えを明確にする授業。
- (2) 文学的な文章の読み取りを通して、心情や場面の描写を捉え、感じたことや考えたことを交流し合い、深め合う授業。

5 授業技術課題

- ・ 分かりやすい端的な指示や発問を行い、学習に見通しを持つことができるようにさせる。
- ・ 座席表を活用し、授業のねらいにせまるための確かな見取りを行う。

◎ 教科の目標と研究内容との関連

(1) 指導要領より

①教科の目標

国語を適切に表現し正確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力及び言語感覚を養い、国語に対する関心を深め国語を尊重する態度を育てる。

②第5学年及び第6学年における各領域の目標

○A 話すこと・聞くこと

目的や意図に応じ、考えたことや伝えたいことなどについて、的確に話す能力、相手の意図をつかみながら聞く能力、計画的に話し合う能力を身に付けさせるとともに、適切に話したり聞いたりしようとする態度を育てる。

○B 書くこと

目的や意図に応じ、考えたことなどを文章全体の構成の効果を考えて文章に書く能力を身に付けさせるとともに、適切に書こうとする態度を育てる。

○C 読むこと

目的に応じ、内容や要旨をとらえながら読む能力を身に付けさせるとともに、読書を通して考えを広げたり深めたりしようとする態度を育てる。

○伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

伝統的な言語文化では、親しみやすい古典の文章を読み、昔の人のものの見方や感じ方を知ることが目標としている。国語の特質に関する事項では、文章の構成や文章中の語句と語句の関係を理解したり、比喩、敬語等の使い方に慣れたりすることを目標としている。

今年度は、その中でもA話すこと・聞くこと「目的や意図に応じ、考えたことや伝えたいことなどについて、的確に話す能力、相手の意図をつかみながら聞く能力、計画的に話し合う能力を身に付けさせること」C読むこと「目的に応じ、内容や要旨をとらえながら読む能力を身に付けさせること」を中心にして授業を考えていきたい。

(2) 今年度指導するポイント

①グループや学級全体での共通理解や問題解決に向けて、相互の知識や考え、意見などを出し合い、一つにまとめていく協議・話し合いができるようにさせる。

②説明的な文章の解釈では、筆者の意図や思考を想定しながら文章全体の構成を把握し、自分の考えを明確にしていくことができるようにさせる。

③文学的な文章の解釈では、登場人物の相互関係をとらえ、それらに基づいて心情や場面の描写をとらえることができるようにさせる。